

日 本 国 特 許 庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1 9 9 9 年 1 2 月 2 7 日

出 願 番 号

Application Number:

平成 1 1 年 特 許 願 第 3 6 8 9 6 6 号

出 願 人

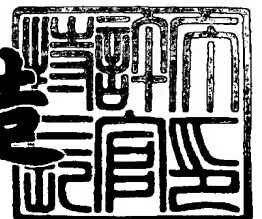
Applicant (s):

株式会社シンクタンク

2 0 0 0 年 9 月 1 日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Patent Office

及 川 耕 造



出 証 番 号 出 証 特 2 0 0 0 - 3 0 6 9 4 0 5

【書類名】 特許願

【整理番号】 TT01

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B42D 15/00

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県相模原市相生 1 丁目 1 1 番 7 号 株式会社シン  
                                クタンク内

    【氏名】 峰岸 幸夫

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県相模原市相生 1 丁目 1 1 番 7 号 株式会社シン  
                                クタンク内

    【氏名】 原田 安雄

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都台東区東上野 2 丁目 1 番 1 3 号 株式会社組織デ  
                                ザイン内

    【氏名】 松崎 俊道

【特許出願人】

    【住所又は居所】 神奈川県相模原市相生 1 丁目 1 1 番 7 号

    【氏名又は名称】 株式会社シンクタンク

    【代表者】 峰岸 幸夫

【代理人】

    【識別番号】 100102923

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 加藤 雄二

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 058090

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

【物件名】	図面	1
【物件名】	要約書	1
【ブルーフの要否】	要	

【書類名】 明細書

【発明の名称】 思索用ツール

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 文字を表示することができる媒体上に、

テーマ表示用枠と、このテーマ表示用枠に対して視覚的に関係を付けて配置され、前記テーマから導き出された複数の思索結果をそれぞれ表示する複数の思索結果表示用枠とから成る主ユニットを配置し、

前記各思索結果を新テーマとして表示する新テーマ表示用枠と、この新テーマ表示用枠に対して視覚的に関係を付けて配置され、前記新テーマから導き出された複数の新思索結果をそれぞれ表示する複数の新思索結果表示用枠とから成るサブユニットを、前記主ユニットに対して視覚的に関係を付けて配置したことを特徴とする思索用ツール。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の思索用ツールにおいて、

媒体は主ユニットとサブユニットとを印刷することができる用紙から成り、

前記主ユニットとサブユニットとの境界には、用紙を折り曲げるための折曲部を設け、

前記いずれかのサブユニットの境界には、用紙の一部を切込むための切込み部を設けたことを特徴とする思索用ツール。

【請求項 3】 請求項 2 に記載の思索用ツールにおいて、

前記用紙の裏面に、前記主ユニットまたはサブユニットの思索結果表示用枠の補充用枠を印刷したことを特徴とする思索用ツール。

【請求項 4】 文字を表示することができる媒体上に、

テーマ表示用枠と、

前記テーマから導き出された複数の思索結果を表示する、複数の思索結果表示用枠を集合した思索ユニットと、

前記思索ユニット中に表示された思索結果の中から選択された所定数の思索結果を選択して表示する複数の選択ユニットとを配置して成り、

前記選択ユニットは、選択された複数の思索結果を表示する上位選択ユニットと、上位選択ユニットに表示された思索結果の中からさらに選択された思索結果

を表示する下位選択ユニットとを含むことを特徴とする思索用ツール。

【請求項 5】 請求項 4 に記載の思索用ツールにおいて、

思索ユニットをそれぞれ複数の思索結果を表示するサブ思索ユニットに区分し

、  
サブ思索ユニットの数と選択ユニットの数とを加算すると、会議参加者の数になるように、サブ思索ユニットの数と選択ユニットの数を選定したことを特徴とする思索用ツール。

【請求項 6】 文字を表示することができる媒体上に、

予め与えられたテーマから導かれた複数の思索結果を表示する思索ユニットと

、  
前記複数の思索結果を、所定の基準に従って順位付けし、順位付けの高いものと低いものとに分類して表示する順位分類ユニットと、

前記各順位分類ユニットに表示された複数の思索結果を、前記基準に従って順位付けし、全ての思索結果を上位のものから下位のものに向かって順に配列して表示する順位付けユニットと、

前記順位付け後の複数の思索結果を内容別に分類して表示する内容分類ユニットとを配置して成り、

前記順位付けユニットの各思索結果を表示する枠には、それぞれ順位に対応した評価点が表示されており、

前記内容別分類ユニットは、

それぞれ別々の参加者の作成した評価点を表示した思索結果を、内容別に分類して表示するとともに、共通の分類に分類された複数の思索結果の対応する評価点を集計して表示する集計枠を備えたことを特徴とする思索用ツール。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、各種のテーマに対して様々な思索をめぐらす場合に、その経過を明らかにして整理するために利用される思索用ツールに関する。

【0002】

【従来の技術】

企業の経営分析の客観性を高めたり、様々な改善計画の評価を行う為に、経営者はいろいろな手段を駆使して情報を収集する。さらに、関係者を集めて対策会議や意見交換を行う。また、会議を効率的に行なって、より高い成果を得るために、例えばブレインストーミング法といった、よく知られた会議手法が採用される。また、与えられたテーマから導き出された思索の結果を各個人が整理するために、例えば、9個のマトリクス状に配列された枡目を使った思索法が知られている（実公平6-28294号等）。

【0003】

この方法では、9個の枡目の中心にテーマを書き込み、その周りに配置された8個の枡目にそのテーマから導き出された思索結果を記入する。「次期の売り上げを倍増するには」といったテーマを上げた場合には、8個の枡目にそれぞれ「××売り場の面積を拡張する」とか、「目玉商品の種類を増やす」といった思索結果が書き込まれる。さらに、「××売り場の面積を拡張する」といった思索結果を新たなテーマにして、具体的にそのテーマを実現するための手段を導き出すための新たな思索をする。この場合にも、同様の9個の枡目を使用する。こうして、一つの大きなテーマを実現するための具体的を手法を視覚的に整理して、よりよい結果を導くために利用している。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

上記の方法によれば、1個のテーマに対して8個の具体的な手段が導き出され、さらに各手段をより具体化した各8個の手段が次々に導き出されると、最大9×9個、即ち81個の情報がリストアップされる。経営者等は、これらの情報を整理して見直して取捨選択し、実際の行動に移していく必要がある。このために、これらの情報を取り扱い易く、利用し易い形態で整理して表示する手段の開発が望まれる。

【0005】

さらに、上記のような方法を、複数の人間の会議に取り入れることができれば、より一層の効果が期待できる。また、1個のテーマに対して複数の人間の思

索の結果、たくさんの手段がリストアップされた場合、その整理や評価に時間がかかり、会議が長時間に及んだり、会議で得られた結果の分析や利用が滞るおそれもある。

本発明は、以上の課題を解決した、思索用ツールを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

〈構成1〉

文字を表示することができる媒体上に、テーマ表示用枠と、このテーマ表示用枠に対して視覚的に関係を付けて配置され、上記テーマから導き出された複数の思索結果をそれぞれ表示する複数の思索結果表示用枠とから成る主ユニットを配置し、上記各思索結果を新テーマとして表示する新テーマ表示用枠と、この新テーマ表示用枠に対して視覚的に関係を付けて配置され、上記新テーマから導き出された複数の新思索結果をそれぞれ表示する複数の新思索結果表示用枠とから成るサブユニットを、上記主ユニットに対して視覚的に関係を付けて配置したことを特徴とする思索用ツール。

【0007】

〈構成2〉

構成1に記載の思索用ツールにおいて、媒体は主ユニットとサブユニットとを印刷することができる用紙から成り、上記主ユニットとサブユニットとの境界には、用紙を折り曲げるための折曲部を設け、上記いずれかのサブユニットの境界には、用紙の一部を切込むための切込み部を設けたことを特徴とする思索用ツール。

【0008】

〈構成3〉

構成2に記載の思索用ツールにおいて、上記用紙の裏面に、上記主ユニットまたはサブユニットの思索結果表示用枠の補充用枠を印刷したことを特徴とする思索用ツール。

【0009】

〈構成 4〉

文字を表示することができる媒体上に、テーマ表示用枠と、上記テーマから導き出された複数の思索結果を表示する、複数の思索結果表示用枠を集合した思索ユニットと、上記思索ユニット中に表示された思索結果の中から選択された所定数の思索結果を選択して表示する複数の選択ユニットとを配置して成り、上記選択ユニットは、選択された複数の思索結果を表示する上位選択ユニットと、上位選択ユニットに表示された思索結果の中からさらに選択された思索結果を表示する下位選択ユニットとを含むことを特徴とする思索用ツール。

【0 0 1 0】

〈構成 5〉

構成 4 に記載の思索用ツールにおいて、思索ユニットをそれぞれ複数の思索結果を表示するサブ思索ユニットに区分し、サブ思索ユニットの数と選択ユニットの数とを加算すると、会議参加者の数になるように、サブ思索ユニットの数と選択ユニットの数を選定したことを特徴とする思索用ツール。

【0 0 1 1】

〈構成 6〉

文字を表示することができる媒体上に、予め与えられたテーマから導かれた複数の思索結果を表示する思索ユニットと、上記複数の思索結果を、所定の基準に従って順位付けし、順位付けの高いものと低いものとに分類して表示する順位分類ユニットと、上記各順位分類ユニットに表示された複数の思索結果を、上記基準に従って順位付けし、全ての思索結果を上位のものから下位のものに向かって順に配列して表示する順位付けユニットと、上記順位付け後の複数の思索結果を内容別に分類して表示する内容分類ユニットとを配置して成り、上記順位付けユニットの各思索結果を表示する枠には、それぞれ順位に対応した評価点が表示されており、上記内容別分類ユニットは、それぞれ別々の参加者の作成した評価点を表示した思索結果を、内容別に分類して表示するとともに、共通の分類に分類された複数の思索結果の対応する評価点を集計して表示する集計枠を備えたことを特徴とする思索用ツール。

【0 0 1 2】



【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を具体例を用いて説明する。

〈具体例 1〉

【0 0 1 3】

図 1 は、具体例 1 の思索用ツールの例を示す外観図である。

この図に示す思索用ツールは、用紙（媒体）1 上に、いくつかの枠により構成された主ユニット 2 とサブユニット 3 とを印刷したものである。図の例では、主ユニット 2 もサブユニット 3 も、3 行 3 列のマトリクス状に配置された 9 個の枠で構成される。

【0 0 1 4】

この思索用ツールは、解決したい問題をテーマとして表示し、思いつくままにその解決手段を表示しながら考えをまとめたり整理したりする場合に利用される。図の例の場合、上記のデザインの枠が適当な大きさの用紙 1 に印刷されているので、これに鉛筆やペンを用いて書き込むようにして利用する。また、上記の場合、文字を表示することができる媒体が紙であるが、例えば、同一のデザインの枠をワードプロセッサやコンピュータのディスプレイに表示して利用することもできる。

【0 0 1 5】

図の主ユニット 2 は、例えば 3 行 3 列のマトリクス状に配置された 9 個の枠で構成される。その中心のテーマ表示用枠 5（枠番号 0 の枠）には思索のためのテーマが表示される。この中心の枠を取り囲むように、8 個の枠（枠番号 1～8 の枠）が配置されている。これらの枠番号 1～8 の 8 個の枠が、テーマから導きだされた思索結果を表示する思索結果表示用枠 6 である。テーマを表示する枠のことを以下テーマ枠と呼び、思索結果表示用枠のことを以下思索枠と呼ぶことにする。即ち、主ユニットの中央にテーマ枠 5、その周りに思索枠 6 が配置される。なお、図が煩雑になるので、多数の思索枠のうちの 1 個にのみ符号を付した。

【0 0 1 6】

この主ユニット 2 の構成自体は、従来技術の項で説明したとおり、既知のものである。主ユニット 2 は次のようにして使用する。

一つのテーマが与えられると、まず、そのテーマをテーマ枠 5 に表示する。次にそのテーマを元にして、例えばそのテーマを解決するための手段をいくつか考えて、テーマ枠 5 を取り囲む思索枠 6 に表示する。9 個の枠で構成される主ユニット 2 の場合、思索結果は 8 個まで表示できる。テーマと思索結果との関係は自由である。即ち、思索結果には、テーマを解決するための手段ばかりでなく、テーマから連想され導き出される様々なキーワードを記述してよい。1 個のテーマ枠 5 を取り囲む思索枠 6 の数は任意である。思索枠 6 がテーマ枠 5 の全周を物理的に取り囲んでいなくてもよい。

## 【0 0 1 7】

図 2 は、主ユニットの変形例を示す説明図である。

図中、テーマ枠にはハッチングを入れ、思索枠は空白にして両者を区別した。例えば図の (a) では、主ユニットを 3 行 2 列のマトリクスで構成した。また、(b) に示す例では、主ユニットを 2 行 2 列のマトリクスで構成した。これらの場合には、必ずしも思索枠 6 1、6 2 がテーマ枠 5 1、5 2 の全周を取り囲むように配置されていなくてもよい。

## 【0 0 1 8】

図の (c) に示すように、テーマ枠 5 3 や思索枠 6 3 を円形の枠で表現することもできる。(d) では、テーマ枠 5 4 の周囲の思索枠 6 4 を扇形にして、円グラフのようなデザインとした。このように、主ユニットは全体として必ずしもマトリクス状に枠を配置したものでなくてよい。(e) ではテーマ枠 5 5 を左の端に配置して、その右側に思索枠 6 5 を並べて配置した。以上のように、思索結果をテーマに対して視覚的に関係付けて配置すればよい。

## 【0 0 1 9】

また、枠は必ずしも実線で囲まれていなくてもよい。例えば、テーマや思索結果を書き込んだり表示することができる部分を、他の部分と明確に区別できるように、模様を描いて仕切ったり、色分けをして仕切ったりするようにしてもよい。以上のようなユニット構成は、主ユニットのみならず、サブユニットにも同様に適用できる。主ユニットとサブユニットとの関係についても同様である。即ち、図 1 に示した用紙 1 上に主ユニットとサブユニットとを視覚的に関係付けて配置

すればよい。また、以下に説明する全ての具体例についても同様である。

【0 0 2 0】

次に図 1 に示したサブユニット 3 の使用方法を説明する。

1 つのテーマを解決する手段が例えば 8 個導き出されて、主ユニット 2 の 8 個の思索枠 6 が埋められた後、いずれかの思索枠 6 に表示された思索結果を新たなテーマにして同様の作業をすすめると、最初のテーマを解決するためのさらに具体的な手段を検討することができる。この場合に、別途主ユニット 2 と同様の枠を印刷した用紙を用意して同様の作業を行えば良いが、図 1 に示した思索用ツールは、1 個の主ユニット 2 の周囲を取り囲むようにに 8 個のサブユニット 3 を配置した。

【0 0 2 1】

図 1 において、各サブユニット 3 は、各思索結果を新テーマとして表示する新テーマ表示用枠 1 5 と、この新テーマ表示用枠 1 5 に対して視覚的に関係を付けて配置され、新テーマから導き出された複数の新思索結果をそれぞれ表示する複数の新思索結果表示用枠 1 6 とから成る。サブユニット 3 のデザインは基本的に主ユニット 2 と同一でよい。もちろん、主ユニット 2 と区別するために別のデザインにしたり、図 2 に示す各種の変形例を自由に採用してよい。いずれにしても、サブユニット 3 は、主ユニット 2 にテーマと思索結果とを表示した後に、その思索結果を新たなテーマにして思索をする場合に利用される。

【0 0 2 2】

図 1 において、例えば主ユニット 2 の右上方のサブユニット 3 の枠番号 2 - 0 のテーマ枠には、主ユニットの枠番号 2 の思索枠に表示した思索結果を転記する。そして、このテーマを解決するための手段をその周囲を取り囲む枠番号 2 - 1 ~ 2 - 8 の思索枠に書き込む。同様の作業を他のサブユニットについても実施する。

【0 0 2 3】

このような構造にすると、最初のテーマと新たなテーマとの関係を 1 枚の用紙上で明確にし、思索過程をまとめて表示することができる効果がある。図 1 の例では、サブユニット 3 を用いて、8 個の新テーマに対してそれぞれ 8 個の新思索

結果を表示して、これらを主ユニット 2 とともに一覧することができる。

【0024】

図 3 において、(a) と (b) は図 1 の思索用ツールを折り畳んで使用する過程の斜視図で、(c) は図 1 の思索用ツールの別の使用法を示す上面図である。

上記のような思索用ツールは、携帯して持ち歩き、アイデアが浮かんだときにポケットから取り出して新たなアイデアを書き込んだり、全体を見渡して検討するといった利用の仕方が考えられる。このとき図 1 に示したような用紙をそのまま開いて持ち歩くのは不便である。

【0025】

そこで、図 1 に示す例では、図 3 の (a) に示すように、主ユニット 2 と各サブユニット 3 との境界やサブユニット相互の境界に印刷した折れ線 8 を境にして用紙 1 を折り曲げる。切込み線 9 は、(a) の状態から (b) の状態にまで用紙を折り畳み易くするためのものである。こうすれば、洋服のポケット等に収納し、必要に応じて取り出して、主ユニット 2 や任意のサブユニット 3 をユニット単位で参照し、その内容を検討することができる。

【0026】

次に、図 3 (c) の例の説明をする。

主ユニット 2 とサブユニット 3 との境界には、用紙を折り曲げるための任意の形式の折曲部を設ければよい。ここに実際に線を印刷する以外に、用紙に予め折り目をつけておくといった方法も可能である。また、いずれかのサブユニットの境界には、用紙の一部を切込むための任意の形式の切込み部を設ければよい。線を印刷する以外に、予めカッティングをしておくといった方法も可能である。また、折り曲げて畳むための切り込みの場所は上記の例に限定されない。自由に変更して差し支えない。

【0027】

なお、例えば図 1 に示した枠番号 1-0 の枠にある思索結果を新たなテーマとすると、その周りの枠番号 1-1 ~ 1-8 の枠に各種の思索結果を書き込んだとする。その結果を再検討して、新たな思索結果を既に枠番号 1-6 に書き込んだ内容と置き換えたいといった要求が生れることがある。この場合に、既に枠番号

1－6に書き込んだ内容を消したり書き直したりすると見にくくなり、用紙が汚れてしまう。

【0028】

そこで、図3の(c)に示す例では、用紙1の裏面に、補充用枠11を印刷した。用紙を折り曲げてサブユニット3の思索結果表示用枠に丁度並ぶ場所に、対応する補充用枠11を印刷するとよい。この補充用枠11は主ユニット2に対して用意しても良いし、別のサブユニット全てに対して用意しても良い。こうすれば、用紙1を携帯してときどきその内容を参照し、再検討をして、取捨選択をし、テーマのよりよい解決手段を整理して一覧表にして利用することが可能になる。

〈具体例2〉

【0029】

上記の具体例1で説明した思索用ツールの各枠にテーマや思索結果を表示する手段は、思索用ツールが用紙に印刷されたものの場合、鉛筆やペンである。しかし、メモや連絡事項を記録するために、従来から、貼りつけや引き剥がしが容易な粘着剤を塗布した紙片が広く利用されている。この紙片を上記枠の数だけ用意して、テーマや思索結果を書き込んで貼りつけるようにしてもよい。以下、貼りつけや引き剥がしが容易な粘着剤を塗布した紙片のことを貼紙片と呼ぶことにする。具体例2では、この貼紙片を利用して効率よく会議をおこなうことができる思索用ツールを提供する

【0030】

図4は、具体例2の思索用ツールの外観図である。

この思索ツールも、具体例1と同様にして、用紙20上にいくつかのユニットを印刷したものである。図のように、用紙20の左上にはテーマ枠21が印刷されている。また、左中央には、会議に参加する人の名前を表示する会議参加者ユニット22が配置されている。左下には、3行3列のマトリクス状に思索枠を配列した思索ユニット23が配置されている。

【0031】

さらに、右上から右下に向けて順番に、3つの選択ユニット24、25、26

を配置した。一番上の選択ユニット 2 4 は、思索ユニット 2 3 中に表示された 9 個の思索結果のうちから 5 個を選択して表示するようになっている。右中央の選択ユニット 2 5 は、上に配置された選択ユニット 2 4 中に表示された 5 個の思索結果のうちから 3 個を選択して表示するようになっている。一番下の選択ユニット 2 6 は、上に配置された選択ユニット 2 5 中に表示された 3 個の思索結果のうちから 1 個を選択して表示するようになっている。

【0 0 3 2】

思索ユニット 2 3 中に表示される思索結果の数は任意である。各選択ユニット 2 4、2 5、2 6 中に表示される思索結果の数も任意である。しかしながら上記のように、思索ユニット 2 3 から上位の選択ユニット 2 4 を経て順番に最下位の選択ユニット 2 6 まで、思索結果が絞り込まれていくから、下位の選択ユニットほど表示する思索結果の数は少なくなければならない。図の例では、思索ユニット 2 3 の思索枠を 9 個にし、さらにこの思索ユニット 2 3 をそれぞれ 3 個の思索枠を含む 3 つのサブ思索ユニット 2 3 A、2 3 B、2 3 C に区分した。

【0 0 3 3】

この思索用ツールは下記のようにして使用する。

まず、会議参加者全員に同じデザインの思索用ツールを配布する。即ち、6 人の会議参加者がいれば、図 4 に示した思索用ツールを 6 枚用意して、各自に 1 枚配布する。各自は、思索用ツールのテーマ枠 2 1 に会議のテーマを書き込み、参加者記録ユニット 2 2 に参加者名を書き込む。例えばテーマには、「自社の売り上げを来期は 2 倍にする」といった文字を書き込む。次に全員に 3 分間の持ち時間が与えられて、それぞれ 3 個の思索結果を 3 枚の貼紙片 2 7 に書き込んで、最初のサブ思索ユニット 2 3 A に並べて貼りつける。貼紙片 2 7 は、図のように思索枠と同サイズのものを使用する。次に各自の思索用ツールを例えばその左隣にいる別の会議参加者に渡す。

【0 0 3 4】

そして、今度は 3 分 3 0 秒の持ち時間が与えられて、各自が左隣の参加者から渡された思索用ツールの最初のサブ思索ユニット 2 3 A に表示された 3 つの思索結果を見ながら、新たな 3 つの思索結果を 3 枚の貼紙片に書き込む。会議参加者

はそれぞれ、3つの思索結果を2番目のサブ思索ユニット23Bに貼りつける。そして、再び各自の思索用ツールをその左隣にいる別の会議参加者に渡す。

【0035】

今度は4分の持ち時間が与えられて、各自が左隣の参加者から渡された思索用ツールの最初と2番目のサブ思索ユニット23A、23Bに表示された6つの思索結果を見ながら、新たな3つの思索結果を貼紙片に書き込む。会議参加者はそれぞれ、3つの思索結果を3番目のサブ思索ユニット23Cに貼りつける。これで、思索ユニット23の全ての思索枠に9つの思索結果が表示される。

【0036】

再び各自の思索用ツールをその左隣にいる別の会議参加者に渡す。今度は、持ち時間が1分与えられて、各参加者は、思索ユニット23に表示された9つの思索結果のうちから、売り上げ増に有効と思われるものを5つ選んで最初の選択ユニット24に貼りつける。再び各自の思索用ツールをその左隣にいる別の会議参加者に渡す。

【0037】

今度は、持ち時間が30秒与えられて、各参加者は、思索ユニット24に表示された5つの思索結果のうちから、売り上げ増に有効と思われるものを3つ選んで2番目の選択ユニット25に貼りつける。その後各自の思索用ツールをその左隣にいる別の会議参加者に渡す。更に続いて、持ち時間が30秒与えられて、各参加者は、思索ユニット25に表示された3つの思索結果のうちから、売り上げ増に有効と思われるものを1つ選んで最下位の選択ユニット26に貼りつけて会議が終了する。

【0038】

この会議は、上記の要領で合計15分～20分程度で終了する。各参加者が1枚ずつ思索ツールを持っているから、参加者数分、この例では6枚の会議記録が得られる。各思索ツールには、いずれか3人の参加者の思索結果と、他の参加者による選択過程がそのまま表示されている。従って、効率よく密度の高い情報の収集と分析が可能になる。

【0039】

なお、上記の例では、サブ思索ユニットの数「3」と、選択ユニットの数「3」とを加算すると、丁度参加者の人数「6」になるようにしてある。これによって、上記の要領で会議を行うと、サブ思索ユニットに思索結果を表示した人以外の方が思索ユニットに表示された思索結果を評価し、選別をすることができる。本人の思索結果を本人が選択することがないので、客観的な選択結果が期待できる。この要領で各ユニットの数を選定すれば、5人の会議用、6人の会議用、10人の会議用というように、会議の参加者数にあわせた思索用ツールを用意して効果的な会議をすることが可能になる。

## 【0040】

なお、上記選択ユニットに表示する思索結果の数は、上位から下位に進むほど少なくなるように設定されている。何回かの選択作業を経て思索結果を絞り込み、ベストのものを抽出し易いようにするためである。思索ユニットに表示された思索結果を評価する基準は、例えば重要度の高いものとか、経済的なものとか、斬新なものというように、会議参加者の間で自由に取り決めておけば良い。

## 【0041】

本発明のいずれの具体例も同様であるが、例えば具体例2の場合、テーマ枠と思索ユニットと選択枠とが1枚の用紙に印刷されていると、思索結果を選択する思索過程が一目瞭然である。しかしながら、1つの枠のサイズ等を考慮して、2枚以上の用紙に分けて各ユニットを印刷し、2枚以上の用紙をセットで使用するようにしてもよい。また、具体例1で貼紙片を用いても良いし、具体例2で全ての思索枠に鉛筆やペンを用いて思索結果を書き込むようにして会議をしても構わない。

## 【0042】

本発明のいずれの具体例も、コンピュータのディスプレイ等に各ユニットを表示して使用することが可能である。この場合には、コンピュータプログラムによって各ユニットがリンクされる。具体例1の場合には、主ユニットとサブユニットの概略イメージが同時に1画面に表示され、各ユニットの思索枠については、それぞれ各ユニットを順番に拡大表示して読み書きするようにすればよい。具体例2の場合には、各ユニットを会議の進行に合わせて順番に表示し、マウスで選



択した思索結果を選択ユニットにコピーするような制御をすればよい。

【 0 0 4 3 】

〈具体例 3〉

図 5 に具体例 3 の思索用ツール外観図を示す。

この具体例では、用紙上 3 0 に、テーマ枠 3 1 と、思索ユニット兼順位付けユニット 3 2 と、順位分類ユニット 3 3 とが印刷されている。また、別の用紙 4 0 に、内容分類ユニット 4 1 を印刷している。

テーマ枠 3 1 には予め与えられたテーマが表示される。思索ユニット兼順位付けユニット 3 2 には、このテーマから導かれた複数の思索結果を表示する。順位分類ユニット 3 3 には、思索ユニット兼順位付けユニット 3 2 に表示された複数の思索結果を、所定の基準に従って順位付けし、順位付けの高いものと低いものとに分類して表示する。この基準は具体例 2 と同様になんでもよい。重要度の高いものとか、経済的なものとか、斬新なものというように、会議参加者の間で取り決めておけば良い。この例では、上位、中位、下位の順に分類する。

【 0 0 4 4 】

思索ユニット兼順位付けユニット 3 2 は、順位分類ユニット 3 3 に表示された複数の思索結果を、上記基準に従って順位付けし、全ての思索結果を上位のものから下位のものに向かって順に配列して表示する。思索ユニット兼順位付けユニット 3 2 の各思索結果を表示する枠には、それぞれ順位に対応した評価点が表示されている。思索ユニット兼順位付けユニット 3 2 は後で説明するように、思索結果の順位付け前と、最後の順位付けの際の 2 回使用される。

【 0 0 4 5 】

内容分類ユニット 4 0 には、内容が類似する思索結果をまとめて表示する分類枠 4 3 と、同一の分類枠 4 3 に分類された全ての思索結果の評価点の合計値を表示する評価枠 4 4 が設けられている。分類枠 4 3 に分類される思索結果の内容を明確にするために、左端に分類キーワード枠 4 2 を設けた。内容分類ユニット 4 0 は、全ての会議参加者の思索結果を内容別に分類して表示するためのもので、分類の数と貼紙片の数に合わせて必要な枚数だけ準備される。もちろん、用紙 3 0 と用紙 4 0 は一体であってもよいし、冊子状に綴じられていてもよい。

【 0 0 4 6 】

以上の思索用ツールは次のように使用する。

まず、例えば会議参加者 5 人に、図の用紙 3 0 が配布される。各会議参加者はテーマをテーマ枠 3 1 に書き込み、更に思索ユニット 3 2 に、9 枚の貼紙片に書き込んだ思索結果を貼り付ける。この場合、例えば 3 分の持ち時間を決めて思いついた 9 個の思索結果を各貼紙片に書き込めばよい。また、具体例 2 の会議をしてから、図 4 の思索ユニット 2 3 に表示された 9 個の思索結果をそのまま転記するようにしてもよい。

【 0 0 4 7 】

この例の場合、各会議参加者は、思索結果の順位付けまでを全て一人で行う。思索ユニット 3 2 に 9 個の思索結果を書いた貼紙片が貼り付けられると、次に 3 分の持ち時間が与えられて、9 個の思索結果を所定の基準にてらして見て、上位、中位、下位の 3 つに分類する。そして、各順位の貼紙片を順位分類ユニット 3 3 の該当する枠に貼り付ける。さらに続いて 3 分の持ち時間が与えられて、今度は順位分類ユニット 3 3 の各枠中の各 3 個の思索結果を、上記基準にてらして順位付けし、最終的に 9 個全てに 1 位から 9 位までの順位付けを行う。

【 0 0 4 8 】

このように、9 個の思索結果を大きく 3 つに分類して、その後さらに各 3 個に順位付けをして、最終的に 9 個全てに 1 位から 9 位までの順位付けをするようにしたのは、直観的に短時間で順位付けをする作業がし易いようにするためである。9 個を一度に順位付けしようとするともっと時間がかかり、しかもいい結果が得られないことが多いからである。

【 0 0 4 9 】

以上のように 9 個の思索結果に順位付けを終了した後、各会議参加者は、1 位の思索結果を記入した貼紙片に 9 点という点数を書き込む。また、発案者を明らかにするために例えば全ての貼紙片に氏名を記入したり、印鑑を押す。その後、会議参加者全員の作成した用紙 3 0 を持ち寄る。そして、全ての貼紙片に記入された思索結果を内容的に分類して、類似の内容を表しているものを同一の分類枠 4 3 に貼りつける。また、その分類を明確にするキーワードを、分類キーワード

枠 4 2 に書き込む。そして、同一の分類枠 4 3 中に張り付けられた全ての貼紙片に記入された評価点を集計してその結果を評価枠 4 4 に記入する。

【 0 0 5 0 】

以上で、会議は終了する。例えば会議参加者が 5 人の場合であって、テーマを「次期の売り上げを倍増するには」としたときに、どの会議参加者の思索ユニット 3 2 にも「××売り場の面積を拡張する」という思索結果が含まれていたとする。ところが、ある参加者はその思索結果を 1 位に順位付けし、他の参加者は 3 位に順位付けするといったことが起きる。このとき、貼紙片には同一の内容がかかれていても、人によって評価点が 9 点とか 7 点というようにばらばらになる。内容分類ユニット 4 0 上で分類を行って評価点を集計すると、多くの参加者が重要と考えた思索結果に高い評価点が付き、意見が分かれた思索結果にはあまり高い評価点が付かない。従って、非常に客観的な評価結果が用紙 4 0 上にまとめられるという効果がある。

【 0 0 5 1 】

5 人の参加者が議論をして共通の 9 個の思索結果を得て、それぞれ独自の分類付けをしたり、5 人の参加者が議論をした後、各自が独自に 9 個の思索結果を導き出してその順位付けをしたりすることもできる。さらに、同一のテーマについて、多数の参加者が 5 ～ 6 人のグループに分かれて議論をして得られた内容分類ユニットを集めて分析をすると、参加者全員の意見を評価結果とともに集めて分析することができる。これにより、会議を効率よくすすめて、その結果を見易くまとめて利用できるという効果がある。上記の思索用ツールは、各種の教育システムや、情報を共有して利用するシステム、様々な分野の会議システムに広く利用することができる。

【 0 0 5 2 】

図 6 は、具体例 2 の思索用ツールの実施例外観図である。

実際の会議に使用する場合には、この図に示すように、会議参加者に各ユニットの使用方法を説明した説明文を適宜挿入する。そして、リーダーの指示のもとに、例えば思索結果を記入した貼紙片を該当するユニットに順番に貼りつけたり、貼紙片を移動させたりして、会議を進める。

【0 0 5 3】

参加者記録ユニットには、下記の説明を入れる。

参加者名を記入して下さい。

自己紹介をして下さい（相手を深く理解します）。

1には自分の名前を記入します。2, 3, …と左隣の人の名前を記入していきます。

従って、6は自分の左隣の人になります。そして、リーダーに○をして下さい。

最初にテーマについて話し合いをさせる。そのための説明は下記のとおりである。

（所用時間 約10分間）

リーダーはテーマに対し、参加者と共に軽く話合い、認識を深くして下さい。

テーマに対し、参加者同志が同等に近い認識をもつことが、会議のレベルをあげることになります。

参加者に解決のヒントを提供して下さい。

【0 0 5 4】

最初のサブ思索ユニットの使用法として下記の説明を入れる。

（所用時間 約3分間）

テーマ解決の為のキーワードなどを（12文字前後）3分間のうちに3つ記入して、貼付けて下さい。

3分間たったなら左側の人に、シートごと回して下さい。

次のサブ思索ユニットの使用法として下記の説明を入れる。

（所用時間 約3分30秒間）

回ってきたシートに貼付けられている内容を良く読み、「他の人の考え」を学習して下さい。

そしてさらにグレードアップした、「解決の為のキーワード」などを3つ（12文字前後）書いて、貼付けて下さい。

3分30秒の時間がきたら左側の人へ回して下さい。

【0 0 5 5】

最後のサブ思索ユニットの使用法として下記の説明を入れる。

（所用時間 約4分間）

同じ要領で貼ってある6枚を良く見て

「他の人の考え」を学習して下さい。

更にグレードアップした3つのキーワードなど（12文字前後）を記入して貼付けて下さい。

4分の時間がきたら左側の人へ回して下さい。

【0 0 5 6】

最初の選択ユニットの説明は下記のとおりである。

（所用時間 約1分間）

Aの9つの中から、良いものを5つ選んでここに貼付けて下さい。

そして左側の人へ回して下さい。

2番目の選択ユニットの説明は下記のとおりである。

（所用時間 約30秒）

Bの中から、良いものを3つ選んでここに貼付けて下さい。

そして左側の人へ回して下さい。

最後の選択ユニットの説明は下記のとおりである。

（所用時間 約30秒）

Cの中から、良いものを1つ選んでここに貼付けて下さい。

これで、会議が終了する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

具体例 1 の思索用ツールの例を示す外観図である。

【図 2】

主ユニットの変形例を示す説明図である。

【図 3】

（a）と（b）は図 1 の思索用ツールを折り畳んで使用する過程の斜視図で、（c）は図 1 の思索用ツールの別の使用法を示す上面図である。

【図 4】

具体例 2 の思索用ツールの外観図である。

【図 5】

具体例 3 の思索用ツール外観図である。

【図 6】

具体例 2 の思索用ツールの実施例外観図である。

【符号の説明】

- 1 用紙（媒体）
- 2 主ユニット
- 3 サブユニット
- 5 テーマ表示用枠
- 6 思索結果表示用枠

【書類名】 図面

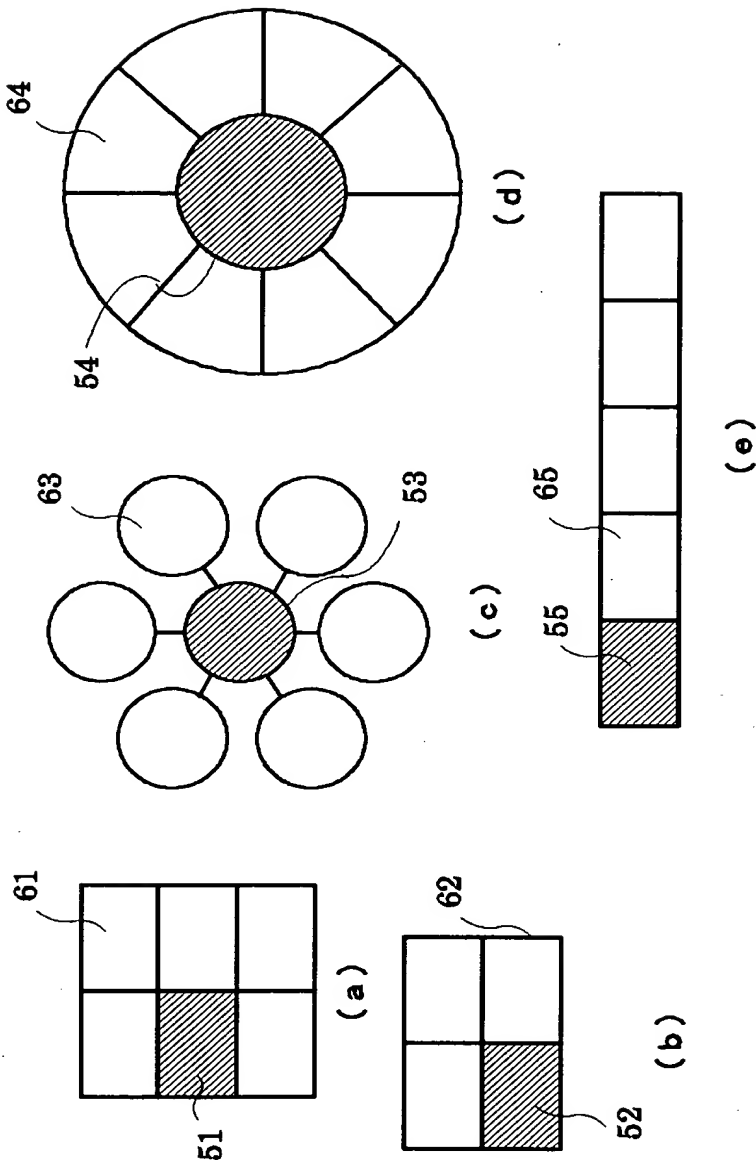
【図 1】

1

2										5		6		15		16		3	
8-8	8-1	8-2	1-8	1-1	1-2	2-8	2-1	2-2											
8-7	8-0	8-3	1-7	1-0	1-3	2-7	2-0	2-3											
8-6	8-5	8-4	1-6	1-5	1-4	2-6	2-5	2-4											
7-8	7-1	7-2	8	1	2	3-8	3-1	3-2											
7-7	7-0	7-3	7	0	3	3-7	3-0	3-3											
7-6	7-5	7-4	6	5	4	3-6	3-5	3-4											
6-8	6-1	6-2	5-8	5-1	5-2	4-8	4-1	4-2											
6-7	6-0	6-3	5-7	5-0	5-3	4-7	4-0	4-3											
6-6	6-5	6-4	5-6	5-5	5-4	4-6	4-5	4-4											

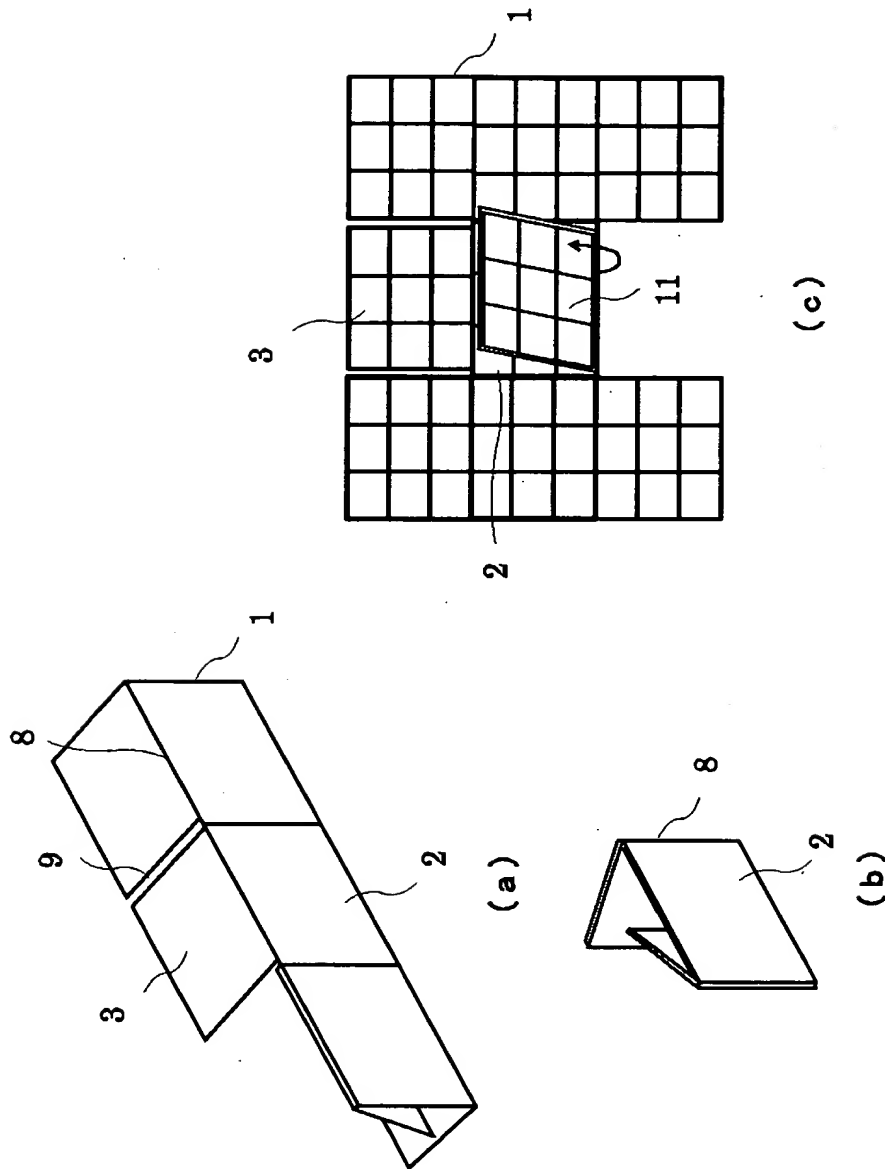
1:用紙(媒体) 2:主ユニット 3:サブユニット 5:テーマ表示用枠  
6:思索結果表示用枠 15:新テーマ表示用枠 16:新思索結果表示用枠

【図 2】



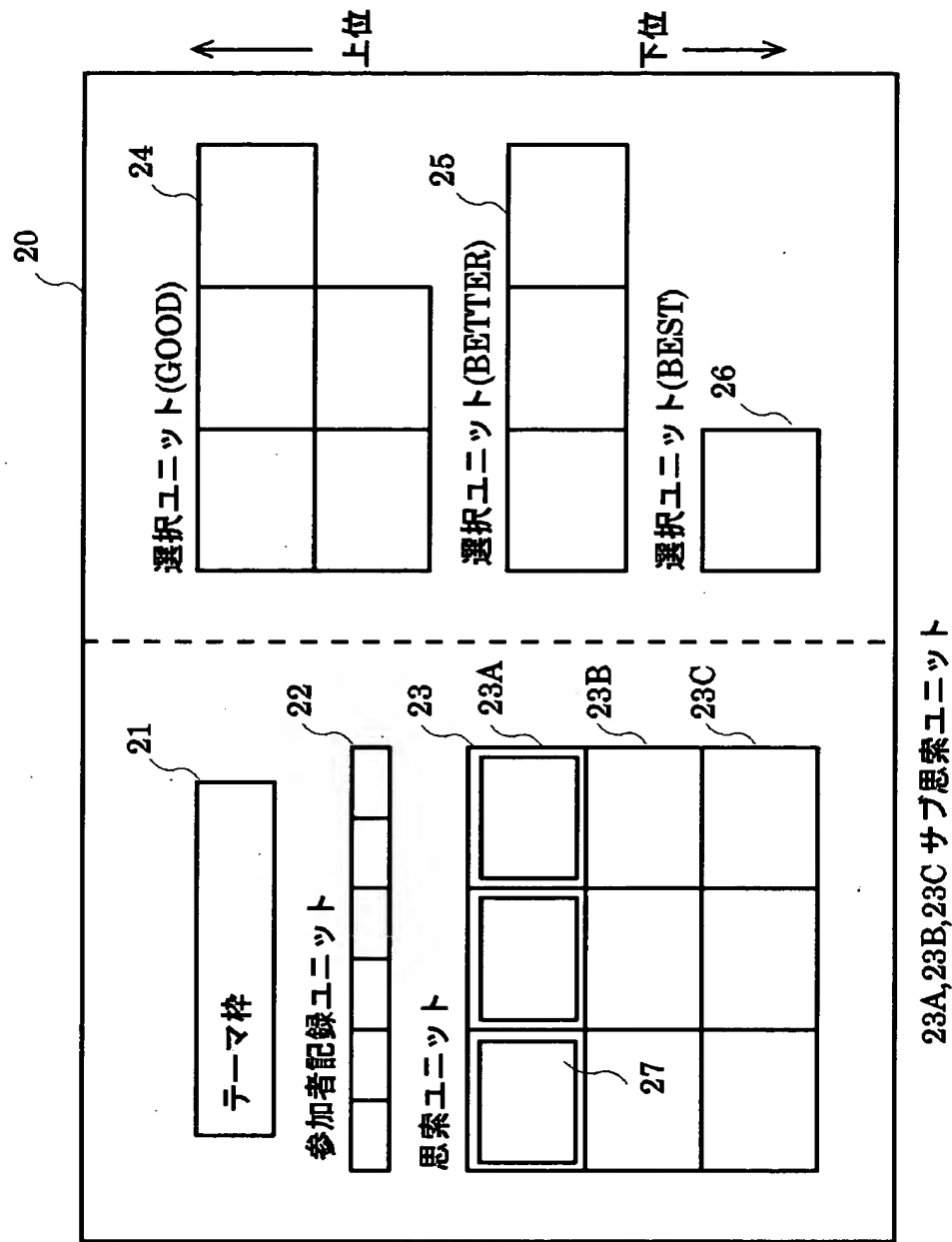


【図 3】

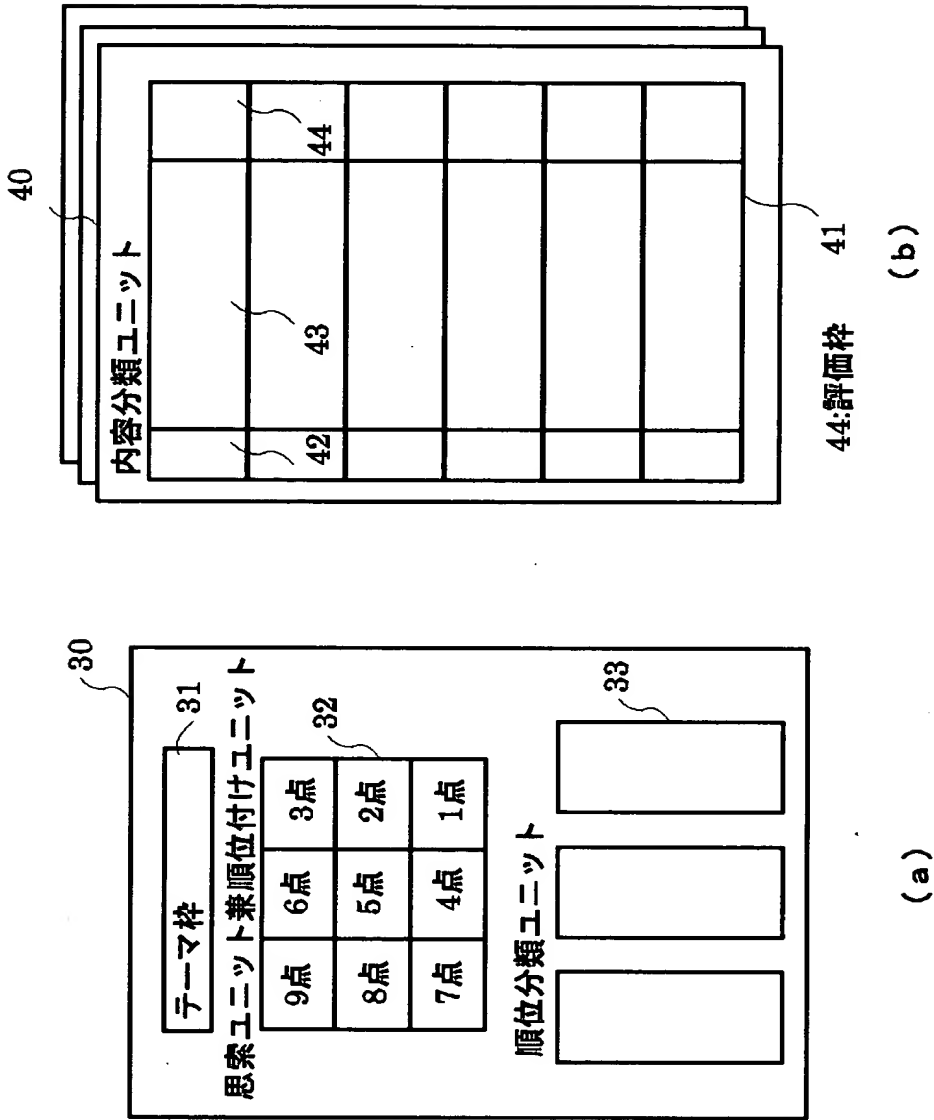


1:用紙(媒体) 2:主ユニット 3:サブユニット 11:補充用枠

【 図 4 】



【図 5】



【図 6】

平成 年 月 日

教育システム  
情報共有システム  
会議システム (6人用)

(私はこのテーマを解決するために、仲間と共に、金銭・金庫をかなむに奮闘します)

①テーマ

②参加者を記入して下さい。自己紹介もして下さい(相手の名前を深く理解します)1)には自分の名前を記入します。2,3,...と左隣の人の名前を記入していきます。従って、6は自分の右隣の人になります。そして、リーダーに〇をして下さい

1	自分	2	3	4	5
---	----	---	---	---	---

③【所用時間約10分間】 リーダーはテーマに対し、参加者と共に話し合い、認識を深めて下さい。テーマに対し、参加者何人か同時に近い認識をもつことが、左隣のレベルをあげることにあります。参加者に解決のヒントを提供して下さい。資料1に思いつくキーワード等をカードに書き、貼付けておくことで④～⑥が便利になります。

シンクタンク・フェイス

④【所用時間約9分間】

テーマ解決のためのキーワードなどを(1)文字前後3分間のうち3つ、カードに記入し貼付けて下さい。3分間、たった左隣の人に、シートごと回して下さい。

⑤【所用時間約9分間】

回ってきたシートに貼付から、他の人の考えを学習して下さい。そしてさらにグレートアップした「解決のためのキーワード」などを3つ(1は文字前後)書いて、貼付けて下さい。3分間の時間過ぎたら左隣の人のへ回して下さい。

⑥【所用時間約9分間】

④と同じ要領で貼ってある枚のカードを良く見て「他の人の考えを学習して下さい。更にグレートアップした3つのキーワードなど(1は文字前後)をカードに記入し、貼付けて下さい。4分の時間過ぎたら左隣の人のへ回して下さい。

⑦【所用時間約9分間】

Aの9つの中から、良いものを選び、そして左隣の人のへ回して下さい。

good

poor

⑧【所用時間約9分間】

Bの中から、良いものを選び、そして左隣の人のへ回して下さい。

poor

poor

⑨【所用時間約9分間】

Cの中から、良いものを選び、そして左隣の人のへ回して下さい。

better

better

⑩【所用時間約9分間】

Dの中から、良いものを選び、そして左隣の人のへ回して下さい。

best

→資料3に貼付けて下さい

【書類名】 要約書

【要約】

【解決手段】 用紙 1 上には、主ユニット 2 とこの主ユニット 2 を取り囲むように配置したサブユニット 3 とが印刷されている。主ユニット 2 は、テーマ表示用枠 5 と、このテーマから導き出された複数の思索結果をそれぞれ表示する複数の思索結果表示用枠 6 とから成る。サブユニット 3 は、各思索結果を新テーマとして表示する新テーマ表示用枠 1 5 と、この新テーマ表示用枠 1 5 を取り囲むように配置し、新テーマから導き出された複数の新思索結果をそれぞれ表示する新思索結果表示用枠 1 6 とから成る。

【効果】 ひとつのテーマから順に導き出される思索結果を見易くまとめて利用できる。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	平成11年 特許願 第368966号
受付番号	59901268077
書類名	特許願
担当官	第二担当上席 0091
作成日	平成12年 1月24日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成11年12月27日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500016707]

1. 変更年月日	1999年12月27日
[変更理由]	新規登録
住 所	神奈川県相模原市相生1丁目11番7号
氏 名	株式会社シンクタンク